

令和3年度全国学力・学習状況調査について

本年5月27日（木）に3年生を対象に実施しました「全国学力・学習状況調査」の結果を分析し、全国・県の結果と合わせて本校の状況をお知らせします。

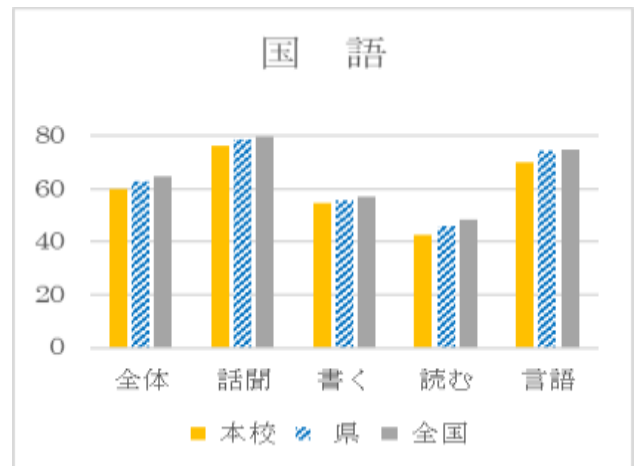
ただし、本調査により測定できる学力は一部であり、競争をあおるものではありません。分析の結果を、これからの授業改善や指導方法の工夫等の取り組みにいかしていきますので、保護者の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

1. 教科の調査から ～ 国語・数学 ～

評価について A：全国平均との差が+3%を超える
 B：全国平均と同等から+3%まで
 C：全国平均との差が-3%まで
 D：全国平均との差が-3%を下回る
 ※ 表の数値は、すべて「平均正答率（%）」を表しています。

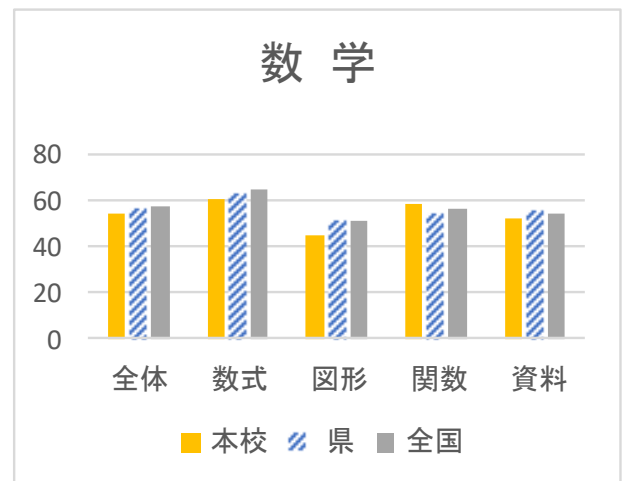
【国語の正答率】

領域	本校	県	全国	評価
全体	60	63	64.6	D
話すこと・聞くこと	76.3	78.8	79.8	D
書くこと	54.6	55.7	57.1	C
読むこと	42.8	45.8	48.5	D
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	69.9	74.6	75.1	D



【数学の正答率】

領域	本校	県	全国	評価
全体	54	56	57.2	D
数と式	60.0	63.1	64.9	D
図形	44.9	50.8	51.4	D
関数	58.0	54.6	56.4	B
資料の活用	52.2	55.3	53.8	C



【国語】

- 「話すこと・聞くこと」の領域は、全国比より低くなっています（-3.5）。話し合いの話題や方向性、質問の意図を捉え「誰がどのようなことについて発言するとよいと考えるか」について理由を具体的に記述により答える設問では、全国比-4.9 と特に低くなっています。「書くこと」の領域とからめ、条件を満たす文章を書く力をつける必要があります。
- 「書くこと」の領域は、全国比よりやや低いです（-2.5）。意見文の下書きを直した意図として適切なものを選択する設問は、全国比-4.5 と低かったです。意見文の下書きの構成の工夫について、自分の考えを書く設問では+2.3 とやや高く、自分の意見を取り入れて書くことができています。
- 「読むこと」の領域は、全国比で低くなっています（-5.7）。「呼吸をのみこんだ」の意味として適切なものを選択する設問は、全国比-13.3 と正答率が特に低かったです。登場人物の言動の意味を考え、内容を理解し、文章中から抜き出して答える設問では、全国比+1.5 とわずかに高く、ワークやスタプロ等での繰り返学習の成果の表れだと思います。文脈から語句の意味を理解できるよう、語彙を習得するとともに、さまざまな文章問題に取り組み、読む力を付けていきたいと考えています。
- 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域は、全国比で低くなっています（-5.2）。「行く」を適切な敬語に書き直し、その敬語の種類として適切なものを選択する設問では、全国比-14.2 と特に低くなっています。普段の生活から適切な言葉遣いで会話するよう留意することで、敬語も身に付けていきたいと考えます。漢字や語句などの意味を反復学習し、語彙の習得に向け、継続的に学習を重ねていきます。

【数学】

- 「数と式」の領域の正答率は、全国比より低くなっています（-4.9）。特に、数学的な見方・考え方の評価項目になっている、記述式の問題の正答率が低かったです。事象を数学的に解釈し、説明が記述でできるよう、練習していきます。
- 「図形」の領域の正答率は、全国比より低くなっています（-6.5）。特に、数量や図形などについての知識・理解の評価項目になっている問題の正答率が低かったです。図形領域の内容の授業をするときは、1、2年生の基本問題の復習もしながら、めあてを達成できるように授業を行うようにしていきます。
- 「関数」の領域は、全国比より高くなっています（+1.6）。特に関数の意味を理解しているかを問う問題では、全国の正答率よりも 7.1%高かったです。テスト返しのときに、関数の問題を解説することが多かったことが影響していると思います。しかし、「関数」の領域は、全国的に正答率が低い領域です。1、2年生の基本問題の復習を行うだけでなく、授業の始めにワークの難しい問題を解説するなど、さらに難易度の高い問題が解ける生徒が増えるよう、様々な問題に触れさせます。
- 「資料の活用」の領域は、全国比で少し低くなっています（-1.6）。特に、相対度数の必要性と意味を理解しているかを問う問題の正答率が低かったです。他の領域でもいえますが、小数、分数に対する理解が不十分なまま中学校の内容を学習している生徒が多く、その影響があると考えます。授業では、小数、分数の計算で困っている生徒を見逃さず、個別に指導するようにしていきます。

2. 生徒質問紙調査から ～学習習慣や生活習慣などに関する質問～

【本校で十分に満足いく結果のもの】（80%以上が肯定的な回答）

【生活習慣など】

- ◎朝食を毎日食べている（92.8%）（全国比0.0%）
- ◎毎日、同じくらいの時間に寝ている（84%）（全国比+4.2%）
- ◎毎日、同じくらいの時刻に起きている（95.7%）（全国比+3%）

【学校生活など】

- ◎自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしている。（87%）（全国比-2.8%）
- ◎人が困っているときは、進んで助けている（81.2%）（全国比-7.3%）
- ◎いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う（95.6%）（全国比-0.3%）
- ◎人の役に立つ人間になりたいと思う（91.3%）（全国比-3.7%）
- ◎友達と協力するのは楽しいと思う（91.3%）（全国比-2%）

【全国より下回り、課題がある結果のもの】

【生活習慣など】

- ▲将来の夢や目標を持っている（58.0%）（全国比-10.6%）
- △自分には、よいところがある（75.4%）（全国比-0.8%）
- △難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している（62.3%）（全国比-3.6%）
- △学校に行くのは楽しいと思う。（78.3%）（全国比-2.8%）
- △自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉であらわすことができる
（68.1%）（全国比-7.1%）
- ▲携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っている
（49.2%）（全国比-18.7%）
- ▲普段（月～金曜日）1日当たり4時間以上、テレビゲーム（スマートフォンを使ったゲームを含む）
をしますか。（36.2%）（全国比+20%）
- △地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある（40.5%）（全国比-3.3%）

【学習習慣など】

- △家で、自分で計画を立てて勉強している（60.8%）（全国比-2.7%）
- △学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることが
できている（75.2%）（全国比-9.4%）
- △学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たり2時間以上、勉強をする（学習塾で勉強し
ている時間や家庭教師に教わっている時間も含む）（31.9%）（全国比-9.9%）

【学習についての質問】

【国語】

- △国語の勉強は好きである（56.5%）（全国比-4.3%）
- ◎国語の勉強は大切だと思う（95.7%）（全国比+4.1%）
- △国語の授業はよくわかる（75.4%）（全国比-4.7%）
- ◎国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う（92.8%）（全国比+4.1%）

【数学】

- 数学の勉強は好きである（59.4%）（全国比+0.3%）
- ◎数学の勉強は大切だと思う（87.0%）（全国比+3.1%）
- 数学の授業はよくわかる（79.7%）（全国比+5.1%）
- ◎数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う（87.0%）（全国比+12.4%）

【英語】

- ▲英語の勉強は好きである（40.5%）（全国比-16.2%）
- ▲1、2年生のときに受けた英語の授業では、英語で話したり書いたりして、自分自身の考えや気持ちを
伝え合うことができていた（50.7%）（全国比-17.0%）

【その他】

- ◎友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる（92.7%）（全国比-3.8%）
- ◎学習の中でコンピュータなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思う（92.7%）（全国比-0.5%）
- ◎1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた
（82.6%）（全国比+1.6%）
- △1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう
資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していた（55.0%）（全国比-7.0%）
- ◎道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる
（85.5%）（全国比-0.7%）

【質問紙から分析と考察】

全体的な傾向として、肯定的な回答が全国比に対して低い傾向が見られました。本校の生徒は、毎日同じくらいの時刻に寝起きし、朝食も食べる生徒の割合が高い傾向にあります。引き続き「早寝・早起き・朝ごはん」が身に付きますようご家庭でもご指導のほどよろしくお願ひします。また、「いじめはどんな理由があってもいけないことだ」「人の役に立つ人間になりたい」「友達と協力するのは楽しい」と考えている生徒がほとんどです。相手を思いやり正義感が強く献身的な生徒が多いことがわかります。こうした道徳的意識の高さは学校の日常生活の落ち着きになって表れていると考えます。

一方課題として、「将来の夢や目標を持っている」「自分には良いところがある」「難しいことでも失敗を恐れぬ」「自分の思っていることをきちんと言葉であらわすことができる」と回答した生徒の割合が全国に比べ低く、自己肯定感の低さがその原因の一つと考えられます。学校では普段からあらゆる場面で、積極的に生徒一人ひとりの良さを見つけ評価することを心がけるなど、生徒の自己肯定感を高める手立てを講じていきたいと思ひます。

また、ネットやゲームの使用について大きな課題が浮き彫りになりました。半数近くの生徒が、スマートフォンの使用やゲームについて、家での約束が守れておらず、平日のゲーム時間は1日当たり4時間以上している割合が全国に比べ20%も高い結果が出ています。スマートフォンの使用やゲームの時間が長いほど、学力の習得に影響が出ることが統計的にも示されています。実際に家庭学習について、「平日2時間以上勉強する」と回答した生徒が全体の32%と、低い結果も出ています。あらためてご家庭でスマートフォンの使用やゲームについてお子様と話をさせていただきたいと思ひています。

そして、今回コロナ禍の影響が回答に表れている面もあります。例えば一昨年度「今住んでいる地域の行事に参加している」と回答した生徒が67.3%に対して今調査では47.8%と大幅に下がっています。行事やボランティア活動が中止・縮小され、地域の人たちとの関わりの中で成長できる機会が減少している中ではありますが、この先のコロナ禍の終息も願ひながら、学校・家庭・地域が一体となって生徒を育てていけるよう、総合的な学習の時間の充実やコミュニティ・スクールの取り組みを推進していきます。

最後に学習について、「学校で学習したことは将来、社会に出たときに役立つと思う」と回答している生徒が多く、このことから将来の夢や目標を持てるよう、キャリア教育を充実させながら内発的動機付けをし、学習への意欲につなげていきたいと考えています。また授業では、生徒が学習した知識・技能を活用し、思考・判断・表現することを苦手とする結果が見られます。得た知識や技能をアウトプットすることが学習の定着に大きくつながります。今後も校内研修の充実を図り、新学習指導要領のもと、主体的・対話的な深い学びを意識した授業実践に努めていきます。その他、今年度からスタートしたGIGAスクール構想については、生徒の学習におけるICT機器の活用への興味・関心が非常に高く、今後も効果的な活用を行っていきます。